

平成 27 年度 第 3 回 藤沢市行財政改革協議会

日 時 2015 年(平成 27 年)8 月 27 日 (木)
午後 3 時 00 分

場 所 藤沢市総合防災センター 3 階会議室

1 開 会

2 議 題

(1) 平成 27 年度藤沢市外部評価及び「カイゼンふじさわ」の結果について

3 その他

4 閉 会

事務局

ただいまから、平成27年度第3回行財政改革協議会を開催いたします。
開催に当たりまして、本日の出席者は過半数を超えておりますので、
会議が成立していることをご報告いたします。また、現時点での傍聴者は
おりません。

なお、会議の状況等、写真撮影や録音をさせていただきますので、ご
了承いただきたいと思っております。

それでは、開会に先立ちまして、石井副市長よりごあいさつ申し上げま
す。

石井副市長

先日の「カイゼンふじさわ」については、お忙しい中、評価委員として
のご出席、誠にありがとうございました。

ようやく暑い夏も終わりになったようで、涼しい日もちらほら感じら
れますが、来週から市では9月定例議会が始まります。この定例議会では
26年度の決算の認定をしていただくわけですが、26年度の決算について
は、25年度の決算が市内の大手企業の業績が大変よく、法人市民税をは
じめ個人市民税も含め市税収入が大きく伸びまして、決算的にはいい数値
をいただいたのですが、残念ながら26年度はそういった反動もありまし
て、若干市税が落ちたところがございますが、市税は例年、横ばいで推移
しておりまして、市としては決算的にも問題がないと感じているところで
ございます。とはいえ、皆さん、ご承知のとおり、扶助費等の経費が大き
く伸びており、経常経費は年々増大しておりまして、財源といたしまして
は、投資的な経費にお金が回らないという状況でございます。

また、9月に入りますと、財政課を中心に28年度の当初予算編成に入
ってまいります。当初予算については、来年2月に市長選挙があることか
ら、28年度の当初予算は骨格予算ということで、当初予算と補正予算の
2段階の予算編成になりますが、9月からは本格的な予算編成が始まりま
すので、行政的に忙しい時期に入ってまいります。そうした予算について
は、この間の「カイゼンふじさわ」でもいただきましたご意見等を反映さ
せて、行財政改革に取り組みながら、市民のためによりよいサービス向上
に向けて予算を編成してまいりたいと考えております。

本日もまた、皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、本市のより
よいまちづくりに向けた行財政改革に対するご意見をいただきたいと思
いますので、よろしく願いいたします。

事務局

本日の資料の確認をいたします。(資料確認)

これからの議事進行は村林会長をお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

村林会長

それでは、第3回行財政改革協議会を始めます。

本日の協議会は公開となっておりますので、会議資料については提供と
いうことでよろしいでしょうか。（「異議なし」の声あり）

それでは、次第に沿って会議を進行いたします。

議題（１）平成 27 年度藤沢市外部評価及び「カイゼンふじさわ」の結果
について、事務局の説明をお願いします。

事務局

5月の第2回協議会からの間、6月25日（木）に外部評価、7月25
日（土）「カイゼンふじさわ」をそれぞれ実施いたしました。外部評価及
び「カイゼンふじさわ」の結果につきましては、本協議会の所管事項とし
て報告書を作成していただくことになっております。このたび、報告書の
案を作成しましたので、案に基づきご説明いたします。（資料1参照）

実施結果報告書（案）は、課題設定型の外部評価として実施した外部評
価及び「カイゼンふじさわ」について、その実施概要や評価対象施策の選
定の経過から、外部評価における評価や意見、「カイゼンふじさわ」で議
論していただいた内容をまとめたものとなっております。

表紙裏面は、「目次」として1番から7番まで項目を振らせていただい
ておりますが、1ページに、外部評価の実施概要として目的、実施日時・
会場、実施体制、経費等を取りまとめております。

2ページは、「2 評価対象施策の選定について」として、今年度の評
価対象施策である「循環型社会の実現に向けた廃棄物の減量・資源化の推
進」をどのように選定したのかや、構成する事務事業や施策の課題として
認識されているもの、評価対象とした理由を担当部と行財政改革協議会の
視点から記載しております。また、3ページに移りまして、（5）「平成 26
年度市民生活に関する意識調査結果」を参考に記載しております。

つづきまして「3 外部評価」として、「カイゼンふじさわ」に先行し
て実施した外部評価の内容についてまとめておりまして、（1）評価方法
として、「平成 27 年度外部評価及び「カイゼンふじさわ」施策概要説明シ
ート」を所管課に作成していただいたのですが、これを基礎資料として、
今回の評価対象施策を構成する事務事業の平成 27 年度事務事業評価シ
ート等をはじめとした附属資料を参考として、施策の実施状況についての評
価を行っていただきました。

評価は、必要性・有効性・効率性・公平性・公表資料等のわかりやすさ・
総合評価の6項目について、最低点を1点、最高点を4点とする点数評価
を行っていただき、項目ごとの平均点を評価点としております。また、評
価項目ごとに自由記述方式によりご意見をいただくとともに、施策全体の
評価として「施策の評価できる点と課題」とともに、「これからの方向性
について」ご意見をいただきました。

続いて、4ページから7ページまでがその評価結果を取りまとめたものとなります。まず、4ページ、(2) 評価結果として「施策名」「施策概要」「目的及び必要性」「施策を構成する事業の概要」「平成26年度事業費決算見込額」を記載し、その下に「外部評価の結果」として「必要性」「有効性」を記載しております。「評価項目ごとの主なコメント」の欄は自由記述として、いただいたコメントですけれども、同じような意見は類型化して整理し、記載しております。

続いて、5ページ以降も同様な形式で取りまとめておまして、「効率性・公平性・公表資料等のわかりやすさ」で、6ページの総合評価については、平成26年度の取組について評価できる点と課題を、2段書きで記載しております。

7ページは、これからの方向性として、いただいた意見を取りまとめております。以上が外部評価の結果となります。

続く(3)「カイゼンふじさわ」での論点については、外部評価の結果と施策所管部の課題認識を踏まえた上で、コーディネーターの荒木委員と調整を行った結果、＜論点1＞市民による分別の負担と今後のごみ減量・資源化の取組について、＜論点2＞超高齢社会に向けた今後のごみ収集方法について、＜論点3＞新たな藤沢方式による循環型社会実現に向けた取組についての3点について議論することとなったことを記載しております。

8ページからは7月25日に実施した「4 カイゼンふじさわ」の結果となります。(1) 傍聴者数は35人。(2) 実施結果は、「カイゼンふじさわ」当日は、3点の論点に整理して議論を行いましたので、論点ごとにいただいたご意見を類型化し、まとめとして箱書きさせていただきました。箱書きの下に当日いただいたご意見と、実施後に評価者から提出されました意見シートをまとめの項目ごとに記載しております。なお、文の末尾に「意見」と書いてあるのは、意見シートに記載されたものとなります。

論点1「市民による分別の負担と今後のごみ減量・資源化の取組について」では、市民への周知・啓発といった部分を含めてご意見をいただきました。活発な議論をいただき多くのご意見がありましたが、事務局としては(1) ごみの減量を推進する。(2) 分別方法がわかりにくいものへの対応を検討する。(3) 市民周知、意識啓発、環境教育を進める。(4) インセンティブの付与を検討する の4つにまとめさせていただきました。それぞれのコメント等についてはご確認いただきたいと思います。

10ページをご覧ください。論点2「超高齢社会に向けた今後のごみ収集方法について」では、高齢者のごみ分別やごみ出しの負担軽減の方法や、

環境部だけでなく福祉部門等の他部門との連携についてご議論をいただき、こちらも4つにまとめました。(1)福祉をはじめとする関係部門との連携を深める。(2)高齢者世帯のごみ出しの方法を見直す。(3)地域コミュニティやボランティアへの協力を求める。(4)新たな評価尺度を見出す となっております。

次に、11 ページの論点3「新たな藤沢方式による循環型社会実現に向けた取組について」では、最終処分場の現状や将来的に見込まれる人口減少、それに伴う世帯構成等の変化を踏まえた中で、これからのごみの減量・分別・資源化をどう考えていくか等についてご議論いただいております。3つにまとめました。(1)最終処分場の状況を市民に知らせる。(2)一層の減量を進める。(3)市民を巻き込む取組を展開する。このように3つの論点ごとにいただいたご意見を整理させていただきましたが、委員の皆様からご意見があれば、後ほどお聞かせいただければと思います。

13 ページ以降に、「5 傍聴者アンケートの結果について」まとめております。回収総数 28 件、回収率としては 80% となっております。概ね肯定的な評価をいただいた形となっております。(11) 議論した内容についての意見・感想では、傍聴者からの自由記述により、いただいた内容を取りまとめております。「いろいろ勉強になった」「藤沢市の現状について外部評価者の意見が聞けて、とてもよい取組だと思う」など、高い評価の意見が目立ちましたが、「提起された問題に対して行った課題解決が、提言された問題の解決になるのかは難しい部分だ」や、「費用負担などについて深掘りがなかったのが残念です」といったご意見もありました。

15 ページの「6 評価者アンケートの結果について」は、「カイゼンふじさわ」にご出席いただいた7名の評価者にアンケートを実施いたしました。こちらの結果についても肯定的な評価となっております。16 ページに(6)「カイゼンふじさわ」についての意見・感想として記載しております。こちらも内容的には好評のご意見がほとんどですが、「市民参加をもう少し増やしていくべきだ」といったご意見もいただいております。

「7 今年度の「カイゼンふじさわ」を振り返って」では、「カイゼンふじさわ」の当日の議論や意見、傍聴者アンケートの結果、評価者アンケートの結果などを総合的に踏まえての振り返りと、今後の方向性について記述しております。

以上が実施結果報告書(案)となりますが、委員の皆様には特に8ページから12ページにかけての「カイゼンふじさわ」のまとめの部分と、16ページ、17ページの振り返りの部分について、案のとおりでよいのか、ご審議いただければと思います。説明は以上です。

- 村林会長 事務局の説明が終わりました。コーディネーターを務めていただいた荒木委員から何かありますか。
- 荒木委員 皆様、ご苦労さまでした。毎朝のごみ出しを担当している者としても大変勉強になりましたが、非常に興味のある課題について、評価者も積極的に意見を出していただいて、コーディネートする必要がなかった感がありますけれども、ありがとうございました。
- 市民参加(傍聴者)35名は、それなりによかったかと思えますけれども、せつかくやる以上はもっと広く周知徹底して、たくさん参加していただいた方がいいのかなと思いました。内容については特にコメントはありません。マスコットのピンキーちゃんを使ったり、藤沢市がリーダーシップを取った分別の仕方とか最終処分場の延命策をどんどん広報していければいいのかなと感じました。
- 村林会長 それでは、評価者として参加された委員から一言ずつお願いします。
- 磯村委員 市民にとっては毎日のごみの話は、ごみが未来永劫も含めて自分たちの生活に大変身近であるということと、ごみ自体を資源として取り入れてほしいという話から、環境部分でごみをいかに少なくするかということと、ごみ1つが資源であるという意識を持っていただければと思ったのですが、感想としては、藤沢市のごみ行政は、全国的にも大変進んでいるということはデータの的にも承知しておりますが、こういった状況を数値的な問題も含めてごみの日などに特集を組んで広く市民に知ってもらい、さらに最終処分場の延命も含めて減量化が進むようにぜひ広報していただきたいと思えます。
- 岡本委員 たくさんの方に傍聴していただいて、職員の説明も非常に活発で、みんなで議論を進めていくのに大変やりやすかったと感謝しておりますが、1つだけ、予算に関しては、皆さんと話し合ったわけではないけれども、わざと外したというところがあります。なぜかといいますと、第1回目ですから、いろいろな面で幅が広い。例えば不法ごみは切っているところがあって、これはやりません。ですから、最初は市民に周知させる。そしてだんだん減量させていく。第2にはこれから超高齢社会を迎え、そのときのごみ出しが将来につながっていくわけですから、そのことについて基本的な考え方をきちんとしておいた方が次に向けてやりやすいのではないかと。そうやり出すと、細かくなりますし、どちらかといえば、我々は予算のことは表面上の数字からしかわからないわけですから、変に突っついて、これはおかしいと裏では大変なことになったりすることがありますので、あえて私としては避けたわけです。もしもその部分が必要であるということになれば、そのことについては次の段階で提案をしていただいた方がいい

のではないかと。1回目でそれをやると、あちこちに飛んでしまいますから、そういう形を考えて、このまとめのようにしていただきました。本当によくまとめてあるし、環境部を含めて大変ご苦労さまでしたと申し上げたいと思います。

宮本委員

若い人がいなくてとても緊張して意見が言いにくい場なのかと思ったのですが、論点を整理していただいたりして、思ったよりも率直に若い立場からの意見を言うことができ、私自身もとても勉強になりました。テーマが身近なものだったので、もっといろいろな人に来ていただけたら、もっとよかったのではないかと思います。報告書についてはよくまとめてあって、何も言うことはありません。

平綿委員

市の方、委員の方も含めてよくまとまっていると思うのですが、気になったところは、11 ページの「論点3」の(1)のイ、女坂最終処分場の延命は、全くそのとおりでと思うのですが、その後の「過去に閉鎖した処分場の再生等を検討」とありますけれども、最終処分場は御所見の用田地区にあるのですが、その前は葛原という用田の手前の綾瀬に近いところに、第1処分場、第2処分場、それから今、産業の森構想でいろいろ事業を進めておりますけれども、その手前のところに横須賀水道が通っている道路がある。その右側の平らな畑に1ヵ所山があるんです。あるとき御所見地区の見学で、こんなところに何で山があるのかと思ったが、それは山ではなくて、ごみを捨てたところなんです。それがそのままになっているためにこんもりとした山になってしまった。それが葛原の第2処分場よりも大きい面積なんです。それから産業の森の開発のところかと思うんですが、し尿処理をしてバキュームカーで持ってきたものをそのまま捨てている場所があった。そこは全部木が枯れたりしている。そういう現状のある地区が葛原なんです。

それで気になったのが、「過去に閉鎖した処分場の再生」というのは、逆に言うと、検討してもらわなければいけないのではないかと。再生というと、もう一度掘り直そうという意味ですよね。そうではなくて、そういうところを早くきれいにしていただきたい。例えば女坂処分場は葛原の問題がありましたので、自治会とも検討しながら対策を練りながら、そのために道路をつくってもらったとか、いろいろな条件はあったのですが、葛原の方はまだ珍しい状況があったので、つくったけれども、結局ダイオキシンが流れて、最終的には目久尻川に流れ込んで魚が全部浮いてしまったというようなことがあって、その後、モーターで処理をするようになって、時々、現状報告を御所見地区にはしてもらっているけれども、余り影響のない状態になってきたというのが現状で、たまに強い雨が降ると、少し濃

度が上がってくるようですが、特に問題はないというけれども、それをまた同じ地区に再生されたんでは困るというのが個人的な意見ですけれども、地区の人の意見でもあるのではないかとということが気になったので、意見を述べさせてもらいました。

村林会長 今、おっしゃったのは論点3の(1)のイの表現方法なのか、あるいはこれはもうこういう形があったわけですから、7番にこの件について触れるということですか。

平綿委員 この意見に対して、こういうことをご存じのない方がいると、こういう意見が出るのではないか。だけど、地区としては非常に問題を抱えているんだということをご理解いただきたいという意見であって、こここのところはこうだという意見が必要だと言っているわけではありません。

村林会長 まとめとしてはこれでいいということですか。

平綿委員 はい。

村林会長 当日の進行上でわかりにくい点等がなかったとか、いろいろご意見をいただきまして、今回、オブザーバーで参加された委員、あるいは今、ご意見をいただいた方でも当日の進め方等で何かありましたら、お願いします。

澤田委員 6月25日と7月25日の両方に参加したのですが、最初の外部評価のときよりも「カイゼンふじさわ」の方が皆さんの意見がよくて、かなり勉強されたんだな、というのがたくさんありました。今回はオブザーバーとしての参加であったため、黙って聞いていたのですけれども、今までなかった経験ですので、人の話を十分聞くのもいいなと思いました。それに自分の番ですと、どうしても自分の意見を考えていて、皆さんの意見が全部入らないということがありますので、2回ほどじっくり聞かせていただいて、とてもいい経験になりました。

私も毎日ごみを出していて、8時50分に回収に来るのですが、大変だなと思っていましたので、こういうご苦労があるということが身近に感じられてよかったのと、いつも12月の終わりとお正月には必ずポリバケツの上に「今年もお世話になりました」とか、「来年もよろしく願いいたします」と書くのですけれども、今年はこの話を聞きまして、暑中見舞も出しました。やはり皆さんにやっていただくわけですから、こちらも何かしようかなということが多く感じられました。それから町内会とか他の集まりでもごみ収集の人は、ただ集めるだけではなくて、私たちの家のことも非常に気を使って、例えば戸が閉まっているとどうしたのだろうというようなことを感じてくれているよというお話はいたしました。やはり収集の方がご自分で言うとは嫌みになりますけれども、私は藤沢市民代表で審議会におりますので、クチコミでそういうことを広げていくのはいい事

ではないかと思って、やっております。

澤野委員

今回のテーマは市民の生活に直結した問題ですので、「カイゼンふじさわ」も議論が活発に出て、非常によかったと思います。特に、外部評価をされた岡本委員、磯村委員は市外にお住まいで、藤沢市がいかに恵まれているかとか、先進的なレベルに達しているというようなお話をされていて、私も全くそのとおりであると思います。

私も結構、ごみ出しを自分でやっているのですが、収集車は外部委託の藤沢市興業公社ですけれども、よく挨拶をされています。私の地区はカラスが多く、ネットをかけたぐらいではごみを散らかしてしまう。特に近所のアパートの前はカラスが散らかしてあっても、回収できるものだけを急いで回収して行って、そのまま散らかしっぱなしだったのですが、最近はこちらと掃いていってくださる。特に興業公社の車は2人セットで回っていて、1人が先回りして集めていて車が着くと、すぐに積み込んで、非常に忙しくやっている。これを見ていると大変だなと、特に今年のように猛暑が続くと、年齢的に35歳を超えたらできないのではないかという感じがする。

今のやり方が藤沢市の持続可能かどうかというようなことを磯村委員が言われたような気がするけれども、それは超高齢化の年齢層を問題にして言われたのかどうかわかりませんが、駆けずり回るのは体力的に若い人でないとできないとなると、これから若い層がだんだん減になっていくと、こういう仕事に就く人がいなくなるのではないか。給与面で相当優遇しないと、持続可能性がなかなか難しいのではないかと、そういう視点で考えてみましたが、そういう点をこれから行政として問題点をとらえられるのか、お聞かせいただければと思います。

村林会長

今、幾つかございましたけれども、8ページから12ページのまとめ方と16から17ページの記載に関して、何かございますか。

岡委員

非常に簡潔にまとめられていていいと思います。ただ、こういう意見があったと意見を羅列するだけでなく、違うところに書くと、よりわかりやすいというか、これがこれからどういうふうに市は受け取るのかということがわかりやすいのではないかと思いますし、市の方もまとめて終わりではなくて、それに対してこういうふうに進めますという答えをいただくとありがたいと思います。

渡部委員

9ページの(3)のイに関連して、私も藤沢に住んでいたときはごみ出しを家内に言われてやっていたけれども、今はマイホームを購入した関係で茅ヶ崎市に引っ越したのですが、茅ヶ崎市と藤沢市のごみの出し方が全然違って、慣れるのに半年ぐらいかかったのですが、できれば藤沢市

が先頭を切って、周辺の市町村と連携を取って同じ方式にさせていただくと、ここに住まわれる方にとっては一番いいのではないかと思います。

村林会長

私個人としての意見ですが、このテーマが「循環型社会の実現に向けた廃棄物の減量・資源化の推進について」となっていて、論点3も「新たな藤沢方式による循環型社会実現に向けた取組について」と、言葉としては強く出ていますが、内容として循環型社会というのはほとんど出てきていないような気がする。テーマとか論点でここまで強く打ち出した以上は、それを受けた書き方をしておかないと、この点、見落していないかと言われるのではないかというのが私の感じですが。もしかすると、藤沢市民でない私としては、循環型社会がよくわかっていないから、今回のまとめを読んで少しわかるかと思ったら、ほとんど書いてないなというのが感想です。それでは、今日のポイントは、このまとめの書き方、表現等ということだと思いますので、幾つかご意見がありましたので、まとめてお願いします。

事務局

まず、施策そのものに対する、あるいは実施事業に対する意見については、この「カイゼンふじさわ」とは別の取り扱いとさせていただきたいので、今日の協議会で、こういうご意見をいただいているということについては、伝える形でいきたいと思っています。あくまでも今回は、外部評価と「カイゼンふじさわ」が実施された中で、行財政改革協議会としての報告書をどうまとめるかということになりますので、基本的にそれぞれの意見の中身といったことに対する、8ページから12ページの間の中身の修正という点においては、今のところご意見はなかったのかなと思います。

村林会長

私の感想は2つです。1つは、皆さんがおっしゃったことをこのままの表現で終えてよいのかと、市民にある種の誤解を与えるような結果になっていなければよいなど、相当込み入った話なので、どう表現するかというのはあるかと思います。

もう1つは岡本委員がおっしゃった予算のところ「財政的観点が薄い、費用負担などについての深掘りがない」という意見があったとあるが、これもこのまま意見があったで終わってよいのか、例えば振り返りのところで、この点に関しては次回とか別の機会にしたいというような意見を入れておくとかにしないと、この点について無視して議論して終わりかと言われるのはもったいないような気がします。

事務局

会長がおっしゃった、ここで出た2つの意見というのは、「カイゼンふじさわ」実施結果としてよりも、この協議会として16ページの7番の振り返りの中で、どういうふうに取り入れるのか、入れないのかということについてもお話いただければいいかと思います。先ほど女坂最終処分場に

つながる過去に閉鎖した最終処分場の再生については、当日出た意見としては、このまま載せるのか、表現を改めるのかということはあるとしても、意見としてはあった。それをこの協議会の場に持ち返ったときに、それに対してこういう考え方もあるので、単純にこうではないというような作り方をこの中でするということももちろんあるかと思いますが。また、傍聴者のアンケートの中で、財政的視点からの深掘りということについては、17 ページの最後の段落の「財政的視点からの深掘りがされることを期待していた」という意見があったことと、「今後の検討課題として改善を重ねながら」という書き方をしていますが、ここでもう少し踏み込んだ書き方、こういう意図があって、こういった「カイゼンふじさわ」の進め方をしてきたというところもあったけれども、今後、こういう意見があるならば、こういうふうにしていきたいとか、もう少しここを書き加えていくということもあるかもしれないと思っています。

村林会長

これは今後、荒木委員に加わっていただいて、最終的にまとめる作業になると思うのですが、これは市民の皆様公表されるまとめなので、その表現についてお気づきのことがありましたら、お願いします。

澤田委員

9 ページ、(3) のエの「ごみ分別キャラクター」について、若い宮本委員がおっしゃったのですが、この間、初めてピンクちゃんを見て、とてもかわいいと思いました。去年、体育関係で伊勢原に行ったときに、いろいろな市のキャラクターがずらっと並んでいて、藤沢はキャラクターがあるのかなと思ったのと同時に、あんなものなくてもいいのにと思っていたけれども、実際に見てしまうと、とてもかわいいですし、お子さんたちも喜んで写真を撮ったりするので、こういうごみの分別とかいろいろなお祭りのときには藤沢市にもピンクちゃんの大きいものとは言いませんけれども、そういうキャラクターとか、子どもが関心を持つようなものを、若い方の意見ということだけでなく、実現に向けてやっていただけたらと思います。今度、新庁舎もできますので、藤沢市も何かの形でアピールするものがあつたらいいと思いました。

宮本委員

趣旨としては興味をもってもらいたい、楽しみながら関心を持ってもらえるようなものがあつたらいいなと思ったわけです。

村林会長

意見を言われたところをご覧になって、全文を書いているわけではないので、この表現だと誤解を受けるのではないかとこのところがあるとか、この表現は少し変えた方がいいというようなところがありますか。

平綿委員

処分場の件で、ここは直してほしいということを言っているわけではなく、これが一人歩きすると困るので、処分場を抱えている地域としては、将来的には女坂の最終処分場が満杯になったときに、こういう意見が出て

いるので検討されては困るという意味ですから、文章はお任せしますので、どこかに、その方向で進めるのではないと、十分地域と検討するということで、葛原が処分場の候補とされていては困るということだけです。

事務局

岡委員からお話のあった市の考え方の部分、市としてこのことに対する受けとめ、考え方は、改めて報告書を受けた後に、昨年と同じような形になりますけれども、これに基づく市の方針あるいは来年度予算編成に向けて、こういったことをやっていこうとか、すぐにできることであれば、こういうのを今からやりますということがあるかもしれませんし、この「カイゼンふじさわ」や外部評価を受けての市の考え方は、別の形で、次の行財政改革協議会までにまとめていきたいと思います。

宮本委員

12 ページの(3)は、藤沢市は分別の種類が多いナンバーワンとか、環境に配慮しているまちナンバーワンとか、主婦が暮らしやすいまちナンバーワンと、ナンバーワンを打ち出しているのは、話題性があるって出した例だったと思うが、面倒そうなところをあえてナンバーワンに出して、逆転の発想でそういうことを訴えられればいいかなと思ったわけです。

磯村委員

今のところは多分私が他の市町村の鎌倉とか綾瀬の例を言ったところだと思う。分別の種類が増えるということは、例えば缶もアルミとか普通の鉄缶に分けているとか、循環型社会というのはごみを出さない、出したごみは利用する、ごみが資源であるということを市民に知ってもらって、なるべくごみを出さない、ごみが出るものは買わないとか。横浜でもスーパーとかコンビニのビニールの買い物袋に代わって、自分の袋を持っている主婦が多くなっているのも1つの循環型社会の大きな活動だと思う。「ごみは資源です」ということを市民にPRして、ごみゼロの日等で取り組んでほしいというのが本心です。

村林会長

分別種が多いが、主婦が暮らしやすいまちナンバーワンと、環境に配慮しているまちナンバーワンと3つが並んでいるので、言いたいことが薄まっているように思うので、「主婦が暮らしやすいまち」は外してもいいと思う。

澤田委員

宮本委員がおっしゃったのが、書かれていると、これがナンバーワンを目指すという感じになっているけれども、あのときの話はこういう言い方ではなかったと思う。

村林会長

分別が多いけれども、環境に配慮しているまちナンバーワンの方が言いたいことが通ると思います。いずれにしても一人歩きしてほしい文言にしておいた方がいいとか、一人歩きしてほしい文言は外すとか、何か工夫は必要かと思います。

宮本委員

もう一点は、11 ページの(3)のウの「有償ボランティア」について

は賛否両論がある考え方なので、生活支援ボランティアで既にごみ出しの支援をされている組織もあるので、そういった方に協力をお願いすると思います。

村林会長

他にありませんか。

なければ、外部評価結果と「カイゼンふじさわ」実施結果については、本日のご意見を踏まえ修正し、その上で確定したいと思います。第1回の協議会で確認したスケジュールでは、9月中旬に市議会にこの報告書を資料提供したいという話でしたので、修正については次回の協議会を待たずに、事務局と荒木委員とで調整した後、会長が確認するという事によろしいですか。（「異議なし」の声あり）

それでは、最終的には会長一任とさせていただいて、報告書をまとめたいと思います。

これで本日、予定をしておりました議題は終了となります。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

村林会長

3 その他ですが、何かありますか。

岡委員

去年か一昨年でしたか、モデル地域ということで緑色のごみ袋が配られた地域があるのですが、袋には循環型という名目で、ごみを細かく分別しなくてもこの袋に入れられるとか、おむつだけでなくペットのシートも入れられるとか、草も入れていいと、そして無料で持っていくということで、私は湘南台2丁目ですけれども、どさっと送られてきたので、マンションで草を入れることもなく、普通に使っていたのですが、それが終わりましたら、その袋は使えませんというようなお知らせが来ただけで、あれは何か反映されたのか。急にモデル地区に選ばれて、使った後、アンケートも何もなくて、どうしたのかという疑問が残ったので、お聞きします。

石井副市長

藤沢市はごみは燃やしているのですが、生ごみをバイオガス化するという施設の検討を進めていまして、バイオガス化するとき、今、燃やしているごみの中には紙ごみとかいろいろなものを有料袋に全部入れて出してもらっているが、バイオガス化するときにはさらに細かい分別をしなければいけない。つまり生ごみを中心にバイオガスが発生できるようなごみを集めなければいけない。その他に焼却しているような紙ごみ等の分別負担というのを市の方で把握したいということで、今、24種類のごみを資源化できるものとかに分別している以上に、さらなる分別をお願いするとき、どこまで市民に負担がかかるのかということを確認したいということで、湘南台地区はマンションとか学生とか単身世帯が多く、ある意味、多様なご意見がいただけるということ湘南台地区と、その他別に戸建て住宅が多いところを中心に、2地区を対象地区を選んで、3ヵ月ぐ

らいの期間だけ分別負担を確認するための収集方法を試行的にやって、ご意見をいただいて、その結果、収集負担もあるというようなことも含めて今回、バイオガス化の施設については藤沢市としては断念したということです。

澤田委員

以前に、新しい学校ができて体育館では縄跳びもさせてもらえないということを行ったところ、縄跳びもできるようになったということと、今までは運動会が雨のときは体育館が使えなくて、順延になっていたけれども、今年からは雨のときも体育館を使わせていただけるので、ここで申し上げてよかったと思いました。

もう1つは、この前、給食のことを伺いましたが、今度、給食が始まる中学校があるらしいのですが、申し込んでおいて、その日休むとお金を払わないといけないという話を聞いたのですが、給食は当日お休みすると仕方がないというか、3日前に申し込まないともらえないという話を聞いたけれども、私が中学校のときはパンを買うだけだったけれども、当日、パン屋さんが紙袋を渡してくれて、好きなものを入れてお金を渡していたけれども、3日前だと、体の具合もどうかと、中学生が給食になるには親の負担にならないように、当日、お休みしてもお金を払わされないようにしていただきたいということを、これは聞いただけですが、お話をさせていただきました。

澤野委員

資源ごみは一部戸別収集しているが、もっと戸別収集してほしいという市民の希望もあるようですが、環境センターでは当面、現状でいくというお話をされたのはいいことだと思います。というのは、余り戸別収集されると、財政的な負担はもちろん地域のコミュニティが薄れる、地域のコミュニティがどんどん崩れてしまっていて、いろいろなところに波及していき、地域のことがすべて行政にかぶさってくると、行政がそこまでできなくなると思うので、なるべく地域のコミュニティを維持していかないと、自治会組織そのものも昔ほど機能しなくなってきましたから、最低のところまでコミュニティが、ある程度しっかりしたものが残るためには、現状の資源ごみの収集でよろしいのではないかと思います。

村林会長
事務局

事務局から何かありますか。

次回第4回協議会についてですが、第2回協議会で第4回では実行プランの進捗状況を報告し、ご意見等いただくということでしたが、進め方について何かご意見等ありますかという投げかけをさせていただきましたが、本日までにいただいているご意見等はありません。

事務局としては、個別課題が26課題から19課題になっている中で、今までどおりの報告をして、ご意見をいただくというやり方もありますし、

昨年度は幾つかの個別課題に絞って議論をした方がいいのではないかと
いうご意見を伺った経緯もあります。また、平成 27 年度は行革期間 5 年
間のうちの中間年に当たりますので、中間期としての総括のご意見をいた
だく。例えば計画期間 5 年間の初年度から 2 年目、3 年目、4 年目、5 年
目の指標をつくってやっておりますが、真ん中に来て、その目標や指標は
いいのかというのを一度振り返るとか、今行っている取組は妥当なのか、
見直す必要はないのか、といった観点のご意見いただくとか、計画策定か
ら 2 年半たちまして、その間、社会情勢の変化もあるので、それを踏まえ
た課題を設定することが必要ではないか、といったようなご意見もあるか
と思っておりますので、例年どおりの報告、ご意見若しくは計画の中間と
して絞った議論の仕方があれば、この場でご意見をいただきたいと思いま
す。

磯村委員

数値目標はできる限りわかりやすくしていただきたい。平成 27 年度が
5 年計画の中間年ということであれば、中間のまとめ的なもの、例えば達
成できたものはこういうことで達成できたと、残りの 2 年半ではこういう
ことを目指していくとか、達成できなかったのはなぜかというのを総括し
ていただいて、残り 2 年半に向けて、こういう取組をするという方向なり
があってもいいのではないかと思うので、できるのであればやっていただ
きたいと思います。

村林会長

年間の計画をつくって振り返りを 9 月議会で承認をするというのをし
ないと、年度の実績が出ないというところから始まったのですが、それが
議会の承認の前に実績として翌年の計画をつくらうというところまで、前
進というか、企業のやり方に近づいたと思うのですが、もう 1 つは 3 月ま
での実績というのを 12 月とか 1 月の段階で見通して翌年の計画をつくっ
ていけるようなやり方ができると、まさに計対実績がきちんとフォロー
できるような手法になると思うんです。この 5 ヶ年の中間というのは年度
の途中なので結構難しいと思うけれども、あえて言えば、3 年分を見通し
て残りの 2 年をどうするかというところに、行政の皆さんが一回チャレン
ジされるといいのではないかと感じます。そういうことをすることによっ
て、いいことがあるということを職員が気づかないとできないので、これ
はトップダウンでやろうということで、ある種、実績がないとこれは見通
しと言わないんだと言いなれていると、なかなか改革は難しいと思うけれ
ども、大分前進していると思うので、この際、チャンスと思って 3 年の見
通しで、残り 2 年に向う、そのために何ができるかということのをされたら、
今回の取り組みは意義があるのではないかと感じます。

石井副市長

今、会長が言われたのは 5 年間の 3 年目だけれども、3 年目も既に実績

ベースで見通しを立てて、その3年間の総括をきちんとして、残り2年をどうするのかということ議論の方がいいと。事務局が提案しようとしたのは、5年間のうちの2年間はもう実績としてあるから、その2年ベースで残り2年を見通してという、その真ん中の3年目が抜けているのかもしれない。そこのところはちょっとすれ違いがあるかもしれない。

村林会長

2年半というのは難しいのではないかと。

石井副市長

結局、実績を持って言えるのは2年分でしかなく、その2年できちんとした議論をしてもらって、残り2年を言おうとしたのが、ある意味、提案なんです。会長がおっしゃっているのは、3年目もちゃんと見越して、3年の総括をちゃんとして残り2年をどうしていくのかという方向性をもう一回議論するのではないのかというご提案です。そうすると、その見通すということがどうなのか。

事務局

今回、この場で何もなかったとしても今年度の上期、9月末までの段階の実績と9月末段階をもって年度末の状況を見通したときの見込みと合わせて提示させていただくことを目標にしていましたので、その見込みを少しでも精度を高めるようにという調整をしながら、この後ゴールに向けてどうなるのかという見通しを、今までの目標ありきではなくて、目標ではなくて見通しとしてどう思っているのかというのをやり取りしていくという形でとらえさせていただこうかと、今のお話を伺っていて思いました。

村林会長

9月までを0.5というふうに見るだけではないというのは、物事というのは中身においては上期に集中するものもあれば、下期に集中するものが実績でわかっているものもあるし、上期の達成率がすごく低いのに、年度末になると100%になっているような見通しというのは、作業をするだけ時間の無駄なので、言うなればそういうところまで踏み込んで、みんながやろうよという気持ちになるかどうかだと思ってしまうので、多分皆さんは相当苦労されただろうと勝手に推測しているので、ここまで来たらもう一歩頑張っていたらいいなと感じる次第です。今、副市長がおっしゃったとおりですので、ぜひ、3年分ができたなら大したものだと思うので、ぜひ頑張ってください。

事務局

それでは、次回の日程は、11月12日（木）午後3時からを予定しております。なお、今回の協議会資料とともに第2回議事録を配布させていただいておりますが、内容等でお気づきの点がありましたら、協議会終了後、事務局までお知らせください。

もう一点は、藤沢市の指定管理者制度の第三者評価委員会を設置することになっております。その第三者評価委員会の委員は学識経験者、財務の

専門家に加えて市民委員として一人参加をしていただくことを考えております。その市民委員に行財政改革協議会の市民公募委員の方で、「カイゼンふじさわ」とか外部評価の経験もあり、それから男女共同参画の推進の観点と指定管理者を評価するということになりますので、利害関係の有無を考慮して澤田委員にお願いしたいと市の方では考えております。このことは事前に澤田委員にはお話をし、ご了解いただいておりますことを皆様にご報告し、ご承知おきくださるようお願いいたします。

村林会長

以上で、第3回行財政改革協議会を終了いたします。

午後4時25分 閉会